

広報長浜まちなか

〒526-0037
長浜市高田町12-34
長浜まちづくりセンター内
(さざなみタウン)
TEL・FAX 64-2753



特集 子どもが主役のまちなかへ

【砂場にあったもの】

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』。

アメリカの作家ロバート・フルガムの言葉です。ぜひ読んでいただきたい一節であり、少し長いですが引用します。

『人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていないことはないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。（中略）

わたしはそこで何を学んだろうか。何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。使ったものはかならずもとのところに戻すこと。ちらかしたら自分で後片付けをすること。人のものに手を出さないこと。誰かを傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。食事の前には手を洗うこと。

（中略）釣り合いの取れた生活をする……毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと。毎日かならず昼寝をすること。おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。』

【子どもたちの今】

翻って、現代の子どもたちの日々はどうでしょうか。習い事に忙しく、ゲームが遊び相手。そこにある環境を生かして遊びを生み出すような場は「危ない」などの理由で閉ざされてすっかり減ってしまいました。また家庭や学校以外で見守ってくれ、褒めてくれ、叱ってくれる人たちの存在も貴重になってしまったように思います。

改めて「地域で子どもを育てる」ことの価値を見直してみませんか。安心して遊べる環境は、子どもの心身における成長を促すだけではありません。多世代の人をつなぎ、子育ての負担を軽減して、地域の魅力をアップさせる重要な地域社会資源になります。結果として皆が住みよいまちへとつながっていくはずです。

当連合会でも、各種団体や官学、そして中学生もまじえた話し合いの場を設けるなどして、子どもを主役にしたまちづくりの具体化を進めようとしています。皆さんからのご意見やアイデアもお待ちしております。



昨年7月に行った米川での水生生物観察会。地域の子どもとその保護者を対象に約80人が参加（当連合会主催）



長浜西中学生と地域住民との意見交換、交流の場を設け、まちなかにあったらいいことを自由に話し合った（当連合会主催）

連合会レポート

取り組み・行事紹介

■市長へ要望書を提出

昨春、地域づくり連合会と連合自治会が統合、「多世代が共に住み集う快適なまち」（当連合会地域づくり計画より）をめざすなかで、特に市の積極的支援を必要とする課題があります。各連合区からの要望も踏まえた要望書を昨年12月14日に提出しました。以下が主たる要望で、各項目について具体的に必要な支援を市へ伝えています。詳細は当連合会にお尋ねください。

1. 人口の減少と若者の流出への対応

- ①まちなか定住の促進 ②親水空間・米川の魅力化
- ③子どもの主体的な育ちに向けた機会・場所の充実

2. 災害に弱いまちの構造と水害への対応

- ①米川の治水対策の推進 ②防災対策の充実

3. コミュニティの弱体化への対応

- ①長浜まちづくりセンターの指定管理でないことの不均衡是正 ②自治組織の強化への支援 ③地域づくり連合会への財政支援

4. その他

- ①道路・河川整備 ②制度・取り組みの見直し等

市の担当課から各々回答を得たなかで、特に3について、要望の一部と回答を以下に紹介します。先の能登半島地震での被害をふまえ、早急な対応が望まれます。

【要望】 防災上、貴重な空閑地である旧長浜図書館跡地について、長浜まちなかの安全と活性化につながるよう有効活用すべく、地元の意見を踏まえ、市の姿勢を明確にして県に働きかけられるよう求めます。なお、旧図書館施設解体後の未利用期間については、防災・防犯対策に努められたい。

【回答】 地域の安全と活性化につながるような跡地の利活用について、引き続き地元の意向を県に伝えます。また、返還後も跡地の適切な管理により近隣の安全が確保されるよう県に伝えます。（生涯学習課）

【要望】 住宅密集地である、まちなかの建物の耐震改修を促進するため、補助制度等の特別の支援制度を設けられるよう求めます。

【回答】 昭和56年5月以前に建設された、いわゆる「旧耐震基準」による木造住宅は、まちなかに限らず市内に多く存在しており、耐震化の促進は市全域における課題と考えておりますので、現在、市全域を対象とした木造住宅耐震改修等事業の補助を行い、耐震化の促進に向けて取り組んでいます。（建築課）

■「わ！輪！O!! みんなでつながる広場」開催

長浜まちなかフェスタ実行委員会主催、当連合会ほか共催にて2月25日にさざなみタウンで開催。市内外から約50人が参加、まちなかに在住の中学生・高校生・滋賀大教授の3人が進行役を担ってテーマに基づいた交流と意見交換を行いました。

テーマのひとつ「お悩み解決！ Let'sハマコン」は、市内3市民団体が各自の活動を紹介しつつ活動に伴うお悩みを打ち明け、参加者がお悩みを解決できるようなアイデアをグループで考案するというもの。

発表団体の一つとして当連合会も登場、米川かわまちづくりの取り組みにパートナーとして参加する滋賀県立大学の安田希亜良さんが「米川にもっと関心をもってもらえるには？」と投げかけると、参加者からは「SNSで発信」「グッズやアイテムをつくる」などの案が浮上。今後の米川の取り組みの参考になってくれそうです。



米川についての意見を求める県立大生の安田さん。参加者はグループになって議論、さまざまな意見が飛び出した

■長浜まちなかフェスタ

今年は10月27日（日）

さざなみタウンで開催します

昨年10月29日にさざなみタウンを会場にした長浜まちなかフェスタは、約5000人の来場者に恵まれ多様な催しを楽しんでいただきました。

今年も多世代が集い、交流できるフェスタを計画していきます。ご期待ください。